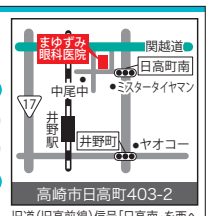
1984年(昭和59年)創刊　"街のよかった"を広げる、高崎市を中心としたコミュニティー・ペーパー

# ちいきしんぶん

2026(令和8)　No.1484　11.6

■発行所／㈱明光企画　高崎市小八木町312-15ビジネスパーク小八木　TEL027(370)2262　FAX027(370)2263

ちいきしんぶんは、原則第1・3金曜日に100,000部を発行し、旧高崎市内の約9割のご家庭・事業所のポストに無料で投函しております。新規お届けもしくはご不要等、配布に関する件は上記までご連絡下さい。

まゆずみ眼科医院
●日帰り白内障手術
●神経眼科
●ドライアイ
●コンタクトレンズ
診療時間
午前　8:45～12:30
午後 15:00～18:00
休診日
木曜日・日曜・祝祭日


高崎市日高町403-2
旧道(旧高前線)信号「日高南」を西へ
初診・再診ともに電話での予約可能　☎027-388-8461

高崎が育んだ俳人・村上鬼城

# 子規・虚子との交流をたどる特別企画展

11/6(金)～29(日)

**近代俳句に大きな足跡を残し、「境涯の俳人」として知られる村上鬼城。幼少期から生涯の大半を高崎で過ごした鬼城と、俳句を通じて結ばれた正岡子規、高浜虚子との交流を紹介する特別企画展「鬼城と子規・虚子」が、11月6日㈮から29日㈰まで、村上鬼城記念館で開催される。**

## 高崎で俳句の道を歩んだ村上鬼城

村上鬼城（本名・村上荘太郎）は、慶応元（1865）年に江戸で生まれ、8歳の時に家族とともに高崎へ移り住んだ。当初は軍人を志したが、耳が不自由になったことから断念。その後は裁判所で働きながら俳句に親しみ、正岡子規や高浜虚子に俳句を学んだ。

後には司法代書人として働きながら創作を続けた鬼城。難聴を抱えながらも俳句への情熱を失うことなく、身の回りの自然や人々の暮らしに目を向け続けた。自らの日常や境遇の中にある喜び、寂しさ、命の姿を見つめたことが、鬼城の作品の大きな特徴となっている。

34歳の時、俳句雑誌『ホトトギス』に初入選。その後、同誌の同人となり、明治・大正・昭和を通じて俳壇で活躍し、数多くの作品を残した。代表句には「元旦や赤城榛名の峰明かり」「ゆさゆさと大枝ゆるる桜かな」「小鳥この頃音もさせずに来て居りぬ」「冬蜂の死にところなく歩きけり」などがある。自然や生き物、日々の暮らしを見つめた句の数々は、今も多くの人に親しまれている。

鬼城は昭和13（1938）年9月17日、並榎町の自宅で73年の生涯を閉じた。市内には鬼城ゆかりの場所も残り、倉賀野町の養報寺に建つ鬼城最初の句碑や、若松町の龍廣寺にある墓は高崎市の文化財に指定されている。高崎市では、その文業と人となりを後世へ伝えるため、現在も村上鬼城顕彰俳句大会などを開催している。

## 子規・虚子との交流を手紙などで紹介

今回の特別企画展では「鬼城と子規・虚子」をテーマに、常設展では見ることのできない手紙などを展示する。

近代俳句の革新を進めた正岡子規と、俳句雑誌『ホトトギス』を発展させた高浜虚子。二人との出会いと交流は、鬼城が俳人として歩む上で大きな意味を持った。

今回の展示では、作品だけでなく手紙などの資料を通して三人のつながりをたどることができる。完成した俳句だけでは見えてこない交流や、その時代を生きた俳人たちの息遣いに触れることで、鬼城の作品をこれまでとは違った角度から味わえそうだ。

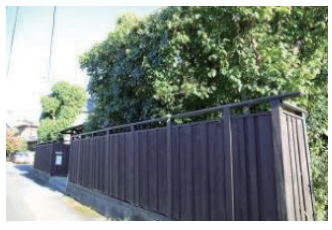
## 鬼城が晩年を過ごした場所へ

会場となる村上鬼城記念館は、鬼城が晩年を過ごした「鬼城草庵」と、作品や資料を展示する「記念館」の2棟からなる。2022年4月から高崎市の施設となり、鬼城の文業や暮らしを現在に伝えている。

鬼城草庵にはカリンの大木があり、鬼城が暮らしていた当時の面影を色濃く残す。1階の和室や2階の書斎には、鬼城が実際に愛用した文机や硯、火鉢などが当時のまま展示されている。記念館では、自筆の俳句や俳画を記した掛軸、屏風、色紙、自筆句集なども見ることができる。

作品を読むだけでなく、鬼城が実際に暮らし、句を生み出した場所に身を置くことができるのも同館ならでは。窓の外の景色や庭の木々に目を向けながら、鬼城がどのように日常を見つめ、十七音の世界へと結び付けていったのか想像してみるのも面白い。

企画展は11月29日㈰までの金・土・日曜、祝日に開催。時間は10時～17時、入館は16時30分まで。観覧料は一般500円、中学生以下と65歳以上は無料。高崎で育ち、近代俳句を代表する俳人の一人となった村上鬼城。その足跡と子規・虚子との交流をたどりながら、改めて鬼城の作品世界に触れてみては。





**特別企画展**
**「鬼城と子規・虚子」**

◆会　期／11月6日㈮～29日㈰の金・土・日曜、祝日
◆時　間／10時～17時（入館は16時30分まで）
◆会　場／村上鬼城記念館（高崎市並榎町288の4）
◆観覧料／一般　500円
中学生以下　無料
65歳以上　無料
◆問合せ／高崎市文化課　TEL027・321・1203




ニューイヤー・コンサート2027
ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団
新年の幕開けを彩るニューイヤー・コンサート。
楽都ウィーンの伝統を受け継ぐ正統派オーケストラと豪華ソリストとともにお届けします。
歌と踊りを交えた華やかで圧巻のステージをお楽しみください。
2027年1月7日(木) 18:30開演（17:30開場）
高崎芸術劇場 大劇場
好評発売中

©Davon Cass　©Naoya Ikegami/SUNTORY HALL
料金（税込）
新年を祝うシャンパン付きチケット
S席 9,000円（U-25 4,500円）
※シャンパン（ノンアル変更可）、生チョコ・カヌレのセット
S席 8,000円 | A席 6,000円 | B席 4,000円
（U-25 S席4,000円 | A席3,000円 | B席2,000円）
出演
ソプラノ：ローレン・アーカート
テノール：ズザボル・ブリックナー
指揮：グイド・マンクージ
ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団
バレエ・アンサンブルSOVOPウィーン
曲目
ヨハン・シュトラウスⅡ世／『皇帝円舞曲』作品437
ワルツ『美しく青きドナウ』作品314 ほか
【主催】高崎芸術劇場（公益財団法人 高崎財団）
【後援】オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム東京／オーストリア政府観光局
高崎芸術劇場
TAKASAKI CITY THEATRE
JR高崎駅東口から徒歩5分 〒370-0841 高崎市栄町9-1
Web　受付開始日の10:00～24時間受付
高崎芸術劇場メンバーズ▶
電話　■高崎芸術劇場チケットセンター
027-321-3900
（10:00～18:00／無休）
窓口　■高崎芸術劇場2Fチケットカウンター
（10:00～18:00／無休）
■高崎市施設プレイガイド